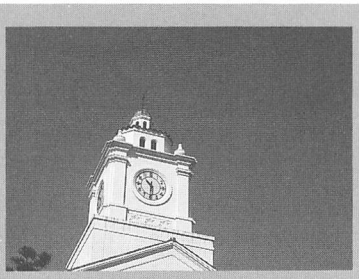


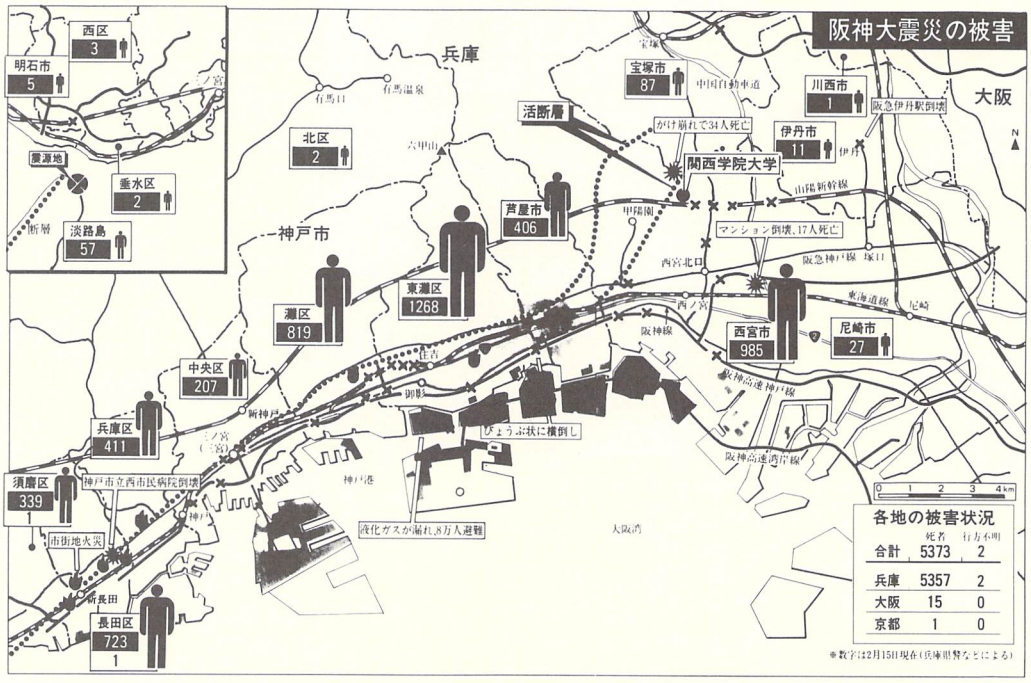
Ⅰ　震災の概要・学院の被害

阪神・淡路大震災の概要

未曽有の大都市直下型地震

1995年（平成７年）１月17日午前５時46分、兵庫県南部地方に震度７（マグニチュード7.2）の大地震が発生した。震源地は淡路島北部で北緯34度36分、東経135度03分、深さは14km と推定され、震度４を観測した地点も、岐阜、和歌山、舞鶴、大阪、岡山、高知と広範囲にわたった。余震は翌日（１月18日）10時までに717回（うち有感75回）起こったが、その範囲は本震の震源をほぼ中心として、北東・南西方向約50kmにのびる線上に沿って広がった。

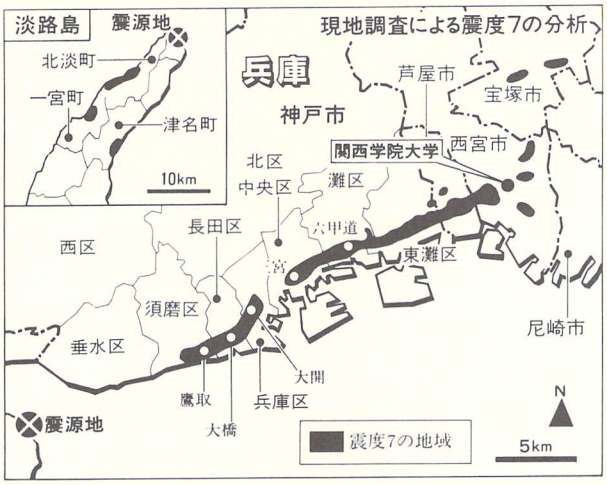
今回の地震は地中の断層が横にずれることにより起こったもので、大きなエネルギーが一挙に吹き出し、そのため、地震の継続時間が短い反面、振幅が大きく、強い揺れを観測した。阪神間には多くの断層があり、また、数多くの活断層が走る世界的にも知られた断層集中地帯だという。このような地帯の上に、わが国の経済活動の中枢を担う大工業、商業地区があり、人口350万人が密集している。この直下で起こった阪神・淡路大震災は、わが国が初めて経験した内陸の大都市直下型地震であった。 兵庫県の災害対策本部によると、今回の被害の特徴として、次の３点を挙げている。第１点は、大都市を直撃した地震のため、電気、水道、ガスなど被害が広範囲となるとともに、新幹線、高速道路、新交通システム、都市間交通・地下鉄が損壊し、生活必需基盤（ライフライン）に壊滅的な打撃を与えたこと。第２点は、古い木造住宅の密集した地域において、地震による大規模な倒壊、火災が発生し、特に、



神戸新聞社発行「阪神大震災全記録」より抜粋

神戸市兵庫区、長田区などでは大火災が多発したこと。第３点は、戦後50年間、近畿には特に大きい地震が無く、各分野において緊急事態への備えが十分であったとは言えず、神戸・阪神地域という我が国有数の人口密集地に発生したため、多数の住民が避難所での生活を余儀なくされたこと、である。

では、実際の被害はどうであったのか。これも災害対策本部の調査によると建物、建造物や鉄道、道路、港湾といったものの被害総額は約10兆円と推定されている。また、県内の倒壊家屋は19万棟。死者6279人(兵庫県発表、１月６日現在)、負傷者約３万５千人であった。そして、住民が切実に、また一刻も早く回復を願った生活必需基盤（ライフライン）については、電気関係で停電が約130万戸。突貫工事の結果、ほぼ全域で仮復旧したのが１月23日だから、１週間近く、暗く寒い日を過ごした地域が多かった。水道は約50万戸が断水し、都市ガスと共に復旧には多くの時間が費やされた。地域によっては３カ月以上も断水したり、ガスが止まり、不便な生活を強いられた。こんな中で特に困ったのが、安否を知らせる電話の不通であろう。地震直後の停電でＮＴＴの交換機が停止して28万回線が不通になり、その後、交換機が復旧したものの、通話申し込みが激増して自動的に規制され、一般加入電話はほとんど通じなかった。公衆電話は多少通じ易かったとはいえ、冬の寒風の中、何時間も立ち並ぶ住民の辛労は大きかった。また、鉄道については、ＪＲ西日本が４月に新幹線、在来線とも復旧したが、大阪と神戸を結ぶ阪神電鉄、阪急電鉄は全線復旧したのが６月になってからであった。代替バスに乗り替え、乗り継いでの長時間の通勤、通学は被災住民に耐え難いほどの重荷となった。なお、主要幹線である阪神高速道路は全面復旧するまでには２～３年かかる見込みで、随所におこる車の渋滞は阪神間のみならず、日本の流通経済にも大きな打撃を与え、市民の生活に間接的な形で圧迫を加えているといえる。



神戸新聞社発行「阪神大震災全記録」より抜粋

今回の大地震では多数の死者、家屋の倒壊、焼失をもたらしたが、ピーク時には約31万人の被災者が公園や学校に避難した。神戸、西宮、芦屋の三市では、避難箇所は約820カ所を数えた。このため、仮設住宅の建設が急ピッチで進められたが、西宮市の避難所は9月まで続けられた。

これまでの関西地方の防災対策は、台風をはじめとする風水害が中心で、今回のような大地震に対しては、全く無防備であったといえる。住民も極めて無関心で、とりわけ阪神地域にはそれが顕著であった。今後は、風水害はもとより、地震などの突発的な自然災害の発生に対して、あらゆる事態を想定した防災マニュアルを確立する必要がある。同時に大規模な事故災害や社会的な不安をもたらす恐れのある事件などに対する、危機管理体制の整備も急がなければならない。

私たちはこの不幸な経験を、将来に生かしていくことを考えていくと共に、ハード、ソフトの両面から、災害に強い町づくりを進めていくことが必要であるが、そのためには、今回の震災を分析し、反省点を明らかにすると共に、大震災に関連した自治体、企業、団体、個人すべてが積極的に結果を公表し、今後に向けた教訓とすべきであろう。

阪急電鉄甲東園駅と門戸厄神駅間に落下した新幹線の高架

学院の被害

阪神・淡路大震災により、大学の在学生15人、理事１人、現・元教職員７人が倒壊した家屋や土砂崩れの下敷きとなって生命を奪われた。さらに、同窓会の調査により判明しただけで約40人の卒業生が逝去された。

本学は、物的にも被害総額10億３千万円という手痛い打撃を受けた。建物の倒壊こそ免れたものの、理学部研究室の出火、中学部矢内会館と心理学研究館ハミル館の半壊、壁面の剥落や亀裂、屋根瓦の脱落とズレ、窓ガラスの破砕をはじめ建物内部の什器備品、実験機器、書架、書類棚等の倒壊が相次いだ。これら損傷した施設・設備の復旧費は総額で約３億７千万円に上った。

以上が本学の物的・人的な被害の概要であるが、地震に関連する臨時的な措置で生じた財政的負担も多大なものであった。被災して家屋が全壊するなど生活基盤が崩壊し、学業継続が困難な学生・生徒約520人に対しては、年間学費を全額免除する措置を講じた。また、大学は被災により経済的に困窮している学生を対象に30万円を限度に無利子で貸付を行う災害特別貸付金制度を創設した。また、300人近い教職員の住宅が全壊、半壊、一部損壊の被害を受けており、これらの救済のために200万円の貸付けを緊急に行い、さらに被災者の住宅建設のために500万円を限度とする貸付制度を通常の貸付とは別に発足させた。

ただし、激甚災害援助法の対象となる本学には、文部省の平成７年度補正予算で、復旧費（大蔵省の査定により認められた分）の２分の１、学費減免事業費の３分の２が補助金として交付される。このため、震災関連の収支では、７月20日現在の支出が約８億３千２百万円で、国庫補助金などの収入（未収入金を含む）が約５億７千７百万円となっている。

① 教職員・理事

教職員関係で今回の阪神・淡路大震災で犠牲になられた方々は次のとおり。

学院理事
辰馬　龍雄さん

文学部教授
中川　　努さん

文学部名誉教授
星野　輝男さん

法学部名誉教授
飛澤　謙一さん

法学部非常勤講師
松本　　剛さん

社会学部元職員
荒川　匡子さん

法学部嘱託職員
秋山　尚文さん

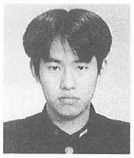
大学院研究課アルバイト
秋山　和子さん

② 学　　生

大震災による学生の犠牲者は15人（男子12人、女子３人）であった。

文・哲学科１年
髙木　公志さん

文・日本文学科1年
扇　　あきさん



経済１年
野呂　太祐さん

文・史学科２年
三木　章裕さん

文・日本文学科2年
重松　克洋さん

法・法律学科２年
松本　美穂さん

経済２年
髙橋　　智さん

経済２年
山辺　哲夫さん

商２年
平田　智絵さん

文・史学科３年
髙須　厚志さん

文・仏文学科３年
伊藤　昌宏さん

商３年
児嶋　達彦さん

文・哲学科４年
和田　　学さん

法・法律学科４年
西部　直行さん

法・法律学科４年
薮内　康行さん

学部別内訳：文学部　７人（男子６人、女子１人）　経済学部３人（男子３人）
法学部　３人（男子２人、女子１人）　商学部　２人（男子１人、女子１人）

③ 同窓関係

大震災による同窓関係の犠牲者は1995年12月31日現在で辰馬龍雄理事を含め42人である。（敬称略）

長部　英三	大正10年・高等商業学部卒	中川　雅夫	昭和26年・短大商科卒
辰馬　龍雄	大正15年・　〃	臼谷　晴雄	昭和28年・法学部卒
岡本　萬三	昭和４年・　〃	熊谷　公孝	昭和29年・高等部卒
畑田　元治	昭和４年・　〃	渋谷　恒晴	昭和30年・法学部卒
上原　増雄	昭和５年・　〃	網本　敬三	昭和31年・　〃
中村　子郎	昭和10年・　〃	延原　健志	昭和32年・経済学部卒
金増　品治	昭和11年・　〃	土井　俊和	昭和33年・高等部卒
松原　龍雄	昭和12年・　〃	堀山美佐雄	昭和34年・文学部卒
豊田　　稔	昭和12年・法文学部卒	畑谷　昌稔	昭和34年・経済学部卒
木村　　弘	昭和14年・高等商業学部卒	高野　昌好	昭和36年・商学部卒
島田　　博	昭和14年・商経学部卒	渋谷　　篤	昭和36年・　〃
山口　昇一	昭和14年・旧制中学部卒	大塚　一子	昭和37年・社会学部卒
片岡　栄市	昭和16年・高等商業学部卒	竹永　邦子	昭和37年・商学部卒
平田　隆治	昭和17年・法文学部卒	岸田　一夫	昭和37年・高等部卒
芳崎　四郎	昭和19年・専門学校政経科卒	松本　忠司	昭和39年・社会学部卒
小林　正昭	昭和19年・旧制中学部卒	渡辺　一史	昭和42年・商学部卒
神吉　康彦	昭和24年・高等商業学部卒	松本　　剛	昭和54年・文学研究科修了
幸田　修一	昭和24年・中学部卒	植松　五男	昭和56年・社会学部卒
武田　　穣	昭和25年・経済学部卒	都筑　美喜	平成１年・文学部卒
古川　　旭	昭和26年・法学部卒	羽角　雅子	平成４年・　〃
植松　雅夫	昭和26年・経済学部卒	志方　友子	平成４年・法学部卒

④阪神・淡路大震災被害復旧費内訳表

棟別名称	建物等復旧額	備品等復旧額	主な被害復旧箇所
神学部校舎	2,926,437	3,124,917	ガラス・瓦・パイプオルガン
文学部校舎	1,408,464	1,486,496	建具・ガラス・瓦・配管
文学部新館	25,915	106,708	建具・会議テーブル
文学部心理学研究館	1,855,335	576,697	内外壁・木製本棚
社会学部校舎	1,011,647	1,201,701	建具・ガラス・防水
法学部校舎	5,229,095	1,601,753	建具・配管・書架
経済学部校舎	5,133,543	260,178	建具・瓦
商学部校舎	8,508,261	543,222	建具・内壁・瓦
理学部校舎	19,886,674	30,329,805	内外壁・配管・研究装置
理学部新館	633,574	432,600	建具・水槽・直示天秤
理学部別館	5,712,698	5,467,652	建具・ガラス・水槽
第1別館	514,040	——	建具・瓦
第4別館	33,411,061	3,144,796	内外壁・柱・ガラス・配管
第5別館	9,294,873	——	内壁・ガラス・防水・配管
A号館	762,966	——	内壁・建具
B号館	2,432,020	——	内壁・床
C号館	502,788	——	内壁・建具
D号館	571,516	——	内壁・建具・ガラス
E号館	87,550	——	AV
第1教授研究館	1,966,232	175,306	ガラス・防水
第2教授研究館	3,243,403	595,031	ガラス・瓦・書棚
大学図書館	200,257	1,552,725	建具・電動集密書架
門衛所	3,518	——	ガラス
新グラウンドポンプ室	300,167	——	濾過器基礎
学院本部	782,832	452,941	内外壁
学院本部新館	34,608	593,383	内壁・壁面書架
学院史資料室	349,541	29,149	外壁・煙突
新月会館	2,273,150	——	内壁・瓦・煙突
同窓記念会館	2,646,595	110,416	内外壁・柱・収納書架
ベーツホール	2,296,581	——	天井・内壁・煙突
宗教センター	2,960,241	294,168	天井・瓦・保管庫
保健館	466,041	549,453	内壁・ガラス・医療機器
大学本館	1,732,944	2,964,676	内壁・ガラス・配管・モニター
学生サービスセンター	61,141	340,724	内壁・収納庫
情報処理研究センター	144,200	2,540,083	建具・パソコン・移動書架
学生会館新館	12,191,018	157,178	建具・床・配管
学生会館旧館	2,960,853	28,531	内壁・ガラス
中央講堂	4,222,817	——	防水・天井
ランバス記念礼拝堂	474,187	445,887	内壁・ガラス・パイプオルガン

総合体育館	2,007,168	418,283	内外壁・ガラス
スポーツセンター	1,393,110	——	ガラス
弓道場	11,536	——	配管
第1購買部	1,918,725	——	瓦・天井
清風寮	365,460	8,858	配管
成全寮	343,311	——	土間・配管
静修寮	48,451	——	床
啓明寮	79,598	37,904	床
食堂風呂棟	223,057	——	内壁・土間
有光寮	376,362	——	石積
外国人住宅　2	5,259,320	13,905	内外壁・天井・床
外国人住宅　3	798,868	15,244	内壁
外国人住宅　4	115,360	——	煙突
外国人住宅　7	798,868	——	内壁
外国人住宅　8	880,197	23,072	内壁
外国人住宅　9	2,581,757	——	内壁・浴室
外国人住宅　2～8	246,870	——	配管
仁川百合野住宅　A	1,437,386	5,356	内外壁・天井・瓦
仁川百合野住宅　B	1,999,766	16,789	内外壁・天井・瓦・配管
仁川百合野住宅　C	2,495,814	91,670	内外壁・天井・瓦・配管
千刈キャンプセンター棟	2,041,872	——	瓦
千刈セミナーハウス	109,592	——	天窓
小　　計	164,751,231	59,737,257	

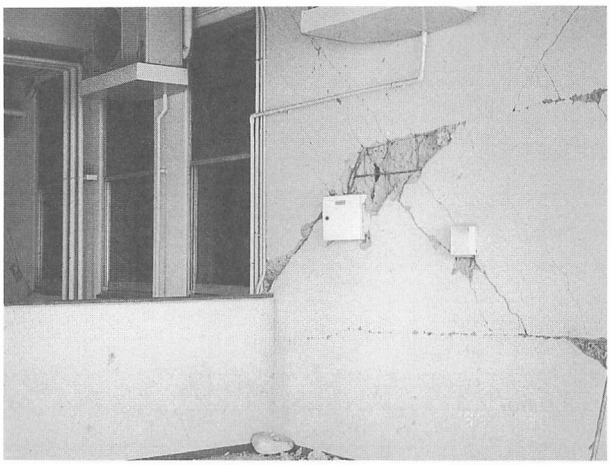
棟別名称	建物等復旧額	備品等復旧額	主な被害復旧箇所
高等部校舎	6,710,492	4,528,518	床・内壁・AV・配管
小　　計	6,710,492	4,528,518	

棟別名称	建物等復旧額	備品等復旧額	主な被害復旧箇所
中学部校舎	18,698,468	449,183	屋根・天井・ガラス・配管
中学部新館	1,284,974	2,771,725	ガラス・AV
中学部会館	41,893,214	——	躯体・配管
中学部体育館	3,926,566	15,862	屋上
小　　計	65,803,222	3,236,770	

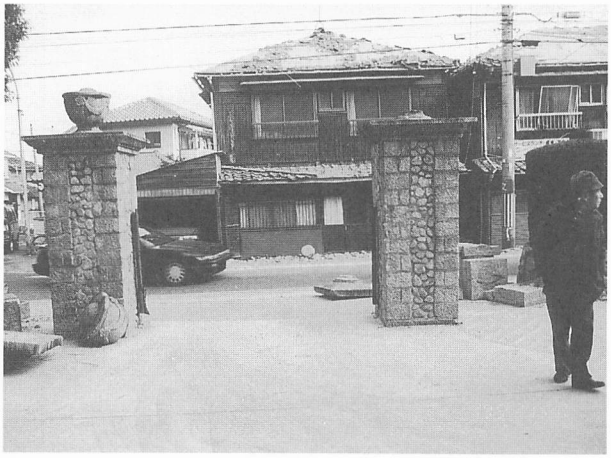
棟別名称	建物等復旧額	備品等復旧額	主な被害復旧箇所
外構関係	67,002,967	——	受水槽・擁壁・配管・塀
小　　計	67,002,967		

合　　計	304,267,912	67,502,545	

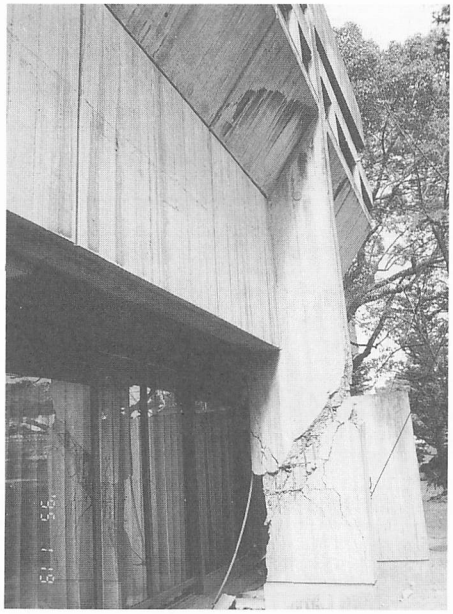
（単位／円）



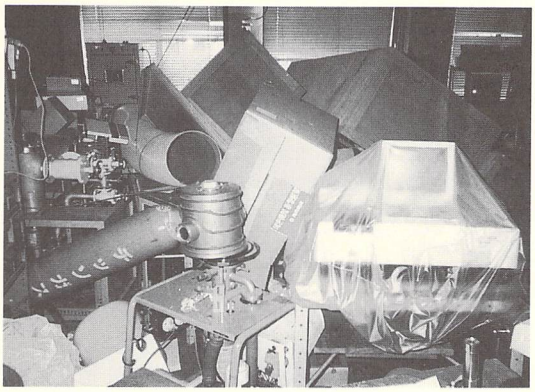
第４別館



大学本館入口



中学部会館

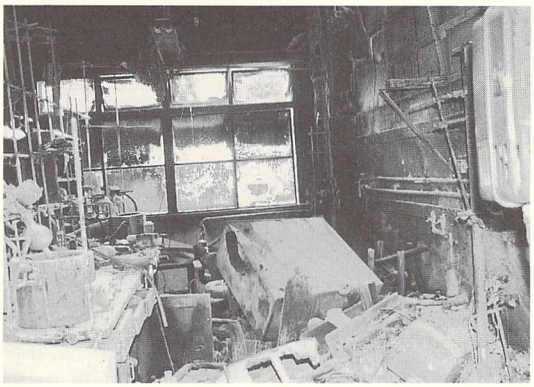


理学部研究室

大学図書館

高等部英語科研究室

商学部事務室倉庫



焼失した理学部研究室

⑤阪神・淡路大震災関連収支報告書

（1995年 1 月17日～ 7 月20日）

収入の部	576,959,401
国庫補助金（経常費補助金［物品災害復旧特別経費］）	81,300,000
地方公共団体補助金（経常費震災特別加算額）	8,765,000
国庫補助金（私立学校建物其他災害復旧費補助金）	153,032,000
国庫補助金（経常費補助金［学費減免事業］）	223,338,000
地方公共団体補助金（学費減免事業）	18,756,000
一般寄付金収入（義援金）	91,768,401
内訳　学院の復興	63,566,728
中学部の復興	9,612,000
高等部の復興	9,221,092
理学部の復興	510,000
教職員のために	655,000
学生のために	350,000
留学生のために	1,500,000
ボランティア活動	6,353,581

支出の部	831,956,761
建物等復旧事業費（95年度執行予定額を含む）	366,436,000
内訳　建　物（理学部研究室火災、文学部心理学研究館・中学部会	237,265,000
館半壊、各建物亀裂、ガラス破損、屋根瓦脱落、漏水	
空調機・ガス配管・建具等の破損　等々）	
土　地（石垣崩壊）	21,680,000
工作物（門柱・舗道・受水槽等損壊、池底地漏水）	45,323,000
設　備（理学部実験設備機器・ボイラー設備の破損	62,168,000
情報処理機器・各種備品の破損）	
学費減免措置（秋学期予定額を含む）	385,529,500
内訳　学部学生・大学院学生	320,932,500
高等部生徒	19,890,000
中学部生徒	16,320,000
留学生	28,387,000

奨学金支出（95年度執行予定額を含む）	19,743,500
内訳　高等部生徒	7,210,000
中学部生徒	11,383,500
留学生	1,150,000

被災外国人留学生寮管理委託費	5,791,000
生協仮設学生寮建設資金援助	2,000,000
住宅開発プロジェクト関連経費	1,256,755

学生会館避難所に係わる生協諸活動援助	300,000
理学部実験機器修繕費	510,000
新聞ラジオ等の告知、大阪分室開設費	39,832,816
被災状況調査郵送料	1,992,140
中学部入試変更告知費	195,050
アルバイト職員休業補塡金	2,080,000
ボランティア活動（95年度執行予定額を含む）	6,290,000

（単位／円）

参 考

1. 犠牲者追悼関係経費	14,549,293 円
内訳　関西学院犠牲者追悼礼拝	8,318,350 円
文学部追悼記念会	710,000 円
犠牲者追悼文集	2,360,000 円
被災教職員弔慰金	1,660,943 円
〃 学生弔慰金	1,500,000 円
2. 大学共同研究特別プロジェクト費（3年計画初年度）	4,000,000 円
3. 学生・生徒・教職員への災害特別貸付（7月31日現在）	408,920,000 円
内訳　災害特別貸付（学部学生・大学院学生）	23,820,000 円
〃　（高等部生徒）	600,000 円
〃　（中学部生徒）	0 円
〃　（専任教職員）	264,500,000 円
災害住宅貸付（専任教職員）	120,000,000 円